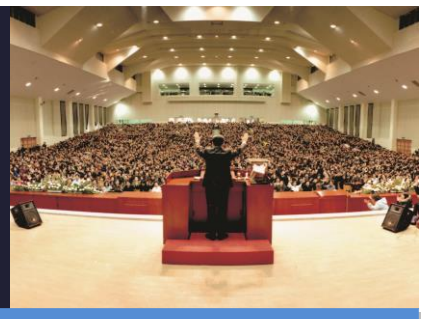
第 2018-26 号

恵みと真理のニュース



2018 年 7 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

GNTCミュージカル'全部、成し遂げた。' 講演を観覧して心が熱くなり大きい恵みと感動を受けました

私は京畿道の小さい都市で生まれ小学校を卒業した後、ソウルに引っ越しして大学生までソウルで住みました。両親は早くイエス様を受け入れて熱心に神様を信じ仕える信仰生活をしました。その理由で私は神様と親の愛をたくさん受けながら幸せな少年時代を過ごしました。教会で充実に信仰教育を受けてまた、親の信仰生活の姿を見習って育ちました。私が小学生6年生だったその年の秋に父親が長老になった時、家でパーティーを開いて村の祭りになったことが 今も鮮明に記憶しています。その頃、交通環境がとても劣悪で一時間も越えて教会に行かなければならなかったです。しかし、親は早天祈り会も一日も休まずに参席して周りの人々からちょっと狂ったのではないかと言われるほど教会中心の生活をしました。父は土曜日の夜になるといつも家庭礼拝を導いて、礼拝を捧げた後は子供たちを聖書暗記をさせました。振り替えてみると、私には幸せな頃であったのに、わたしは幼い心で土曜日が来るのが嫌で暗記させる親が憎む時もいました。私が親になってからこそ、家庭礼拝が家庭と子供のためいくら大事な時間であるか深く悟って父の愛にもっと感謝するようになりました。結婚した後も私は相変わらず、神様を畏れ愛し教会生活を熱心にしました。主日礼拝を期待をしながら参席して御言葉を聞き、教会で聖徒達と共に奉仕して交際しながら日々が幸せでした。このような教会中心の生活を通して信仰が成熟になり人生の生きる力を得ました。

神様が私に息子と娘をくださって勉強と信仰生活をするように助けて下さり、大学進学と結婚のすべての希望を叶えるように摂理してくださいました 。そして、いま、各自に仕える教会で熱心に信仰生活をするように導いてくださるのでその父なる神様の愛と恵にとても感謝します。娘は音楽専攻するようになって自分の足りなさを悟ってから主に近づいて主だけを信頼するようになりました。神様を仰ぎ祈りながら入試を準備して音楽大の進学の夢を成し遂げてくださいました。クラシック音楽をとても好きだった夫の影響で幼い時からピアノを習って伴奏者がない日には、たまに伴奏奉仕をした娘はその後、クラリネット演奏が好きになって専門演奏者になりました。オーケストラの演奏者で7年間活動して12年前に結婚して今はアメリカで生きながら国内でいる時より、もっと熱心に主と教会を仕えています。息子もまた、高校生の時、神学大学に入学させたほうがいいかなと思うほど熱心に信仰生活をしました。そうするうちに本人が祈って決心して一般大学に進学して、大企業に就職をした後、結婚して幸せな信仰の家庭を築きました。

この息子が長く通っていた会社を3年前、急に辞めて1年間、就職浪人の生活をしました。私は成長した息子が祈って決定した事なので神様が確かに息子に他の道を開いてくださるのを信じて神様に祈りながら待ちました。初めて6が月の間は職場生活をしたから少し休んでもいいだろうと思って待ちました。しかし、休む時間が長くなって心配になって神様の御心を願い神様の助けを求めながら切に祈りました。そうするうちにある日、息子ん電話を受けてびっくりしました。難しいと言われる公務員試験に合格した話を伝えたからです。ハレルヤ！息子は特に面接試験の時、予想して準備した通り質問を受けて自分も驚いたと話しました。息子と共にしてくださる主が息子の道を開いて新しく予備して導いてくださいました。

私が今回、証を決心したのは、公演したGNTC 創作ミュージカル“すべてが成し遂げられた”を何日前に観覧してまた、胸が熱くなる大きい恵みと感動を受けたからです。享年の公演の時はGNTC ミュージカルの理事で献身する勧士から招待され公演を観覧したことがあります。その時は大きい期待なくミュージカルを見に行きました。なぜなら、音楽を専攻して演奏者で活動する娘のおかげで芸術の殿堂やオペラハウスなどの最高の施設で国内外の有名な作家と演出家、水準が高い音楽家達の専門俳優が開かれる公園に慣れていたからです。しかし、実際にGNTCミュージカルを観覧して新鮮な衝撃を受けました。聖書の御言葉に充実なストーリーと構成、教会の施設と装備だと言えない素晴らしい舞台装置と照明や音響、衣裳と小物と扮装そして迅速な劇中の場面の転換、俳優の才能や熱延に賛辞を送らざるをえませんでした。純粋な創作ミュージカルであることが信じられなくミュージカルの専門家が来てみても挑戦を受けるほどでした。そして、次の公演を期待しながら新しい今回のミュージカルを再び見るようになって、やはり、期待以上の感動と恵みを受けました。イエス様が私の罪を贖うため十字架に釘打たれる場面で悲しい涙を流して、イエス様が すべてが成し遂げられた’と話した時と復活した場面であふれる喜びと感謝の涙を流しました。このように素晴らしくて恵みあるミュージカルを企画、演出して献身するすべての方々に感謝を捧げます。今まで長い間神様に祈りをした事といくら汗をかいたか感じられます。みんなお疲れさまでした。感謝します。神様に栄光を捧げます。

[信仰コラム]　信仰と心の確定

"さて, 信仰とは, 望んでいる 事がらを 確信し, まだ 見ていない 事實を 確認することである、神よ, わたしの 心は 定まりました. わたしの 心は 定まりました。"
（ヘブル人への手紙 11:1～3、詩篇 57:6～7）

人の運命は彼が持った信仰によって左右されるという事実が聖書に啓示されています。"わが 義人は, 信仰によって 生きる"として、"信仰がなくては, 神に 喜ばれることはできない"と記録されています。

第一は、信仰が何であるかを調べてみましょう。

本分で"さて, 信仰とは, 望んでいる 事がらを 確信し, まだ 見ていない 事實を 確認することである"だと定義しました。この御言葉は"信仰は望みを支えてくれる土台として望むことが叶えられることを保証してくれて、見えないことが実在することを確実に証明してくれることだ。"と解釈することができます。この信仰の根拠は聖書に啓示された神様の御言葉です。聖書は聖霊に感じられた人々が神様から受けて話したのです。聖書に記録された御言葉は全て真実です。私達が持った信仰は神様の御言葉、神様の言約に基づいたことです。従って、私達が信仰を持つためには神様の御言葉を聞いて知らなければなりません。人生を幸いにする信仰、神様の助けられる手を体験する信仰、神様を喜ばせる信仰は聖書に記録された神様の御言葉を信じる信仰です。

第二は、心の考えと信仰の関係を調べてみます。

心は考えの出所であり、考えを受け入れる器です。聖書は私達に無念無想の状態を教えていません。良い考え、優れた考えを持つように教訓しています。聖書の御言葉は神様の考えを人間の言語で記録しておいたことです。聖書に記録された神様の御言葉を心に受け入れて、その通りに考えるのが信仰です。これがあまり容易くはありません。聖書の御言葉の中には人間の経験と知識では理解できないことが多くあるからです。聖書には数多くの奇跡としるしの事件が記録されています。このような聖書の御言葉を心にそのまま受け入れてその通に考えるのが信仰です。

第三は、信仰と心の確定に関して調べてみましょう。

目には何の証拠見えなくて、耳には何の声が聞こえなくても神様の言約なさった御言葉通りに考えようと心に確定をするのが信仰です。アブラハムは自分の年が 100 歳で、妻の年も 90 歳であるので自分と彼の妻の体が子供を生むことができない状態なのを知りました。しかし、彼は子供を生むことを考えました。このような考えの根拠は神様が彼に与えてくださった言約です。アブラハムが 75 歳の時に神様が彼に"わたしはあなたを 大いなる 國民とし, あなたを 祝福し, あなたの 名を 大きくしよう. あなたは 祝福の 基となるであろう。"と言約なさい、その後にも何回言約なさいました。アブラハムは自分の肉親の状態を見る時に到底見込みがなくても、無いことをあることのように呼ばれる神様を信じました。従って、望みえない時に望みました。

神様の御言葉に基づいて望みえない時に望むようになったということはその御言葉が現実化されることに対する兆しです。神様の約束はこれを受け入れる者に彼が望むのが叶えられるまで堅固に立つことができる足場になります。艱難を受けた方々は御言葉に基づいて最終的な善と有益と勝利に対する考えで心を確定してください。疾病で苦痛を受ける方々は御言葉に基づいて癒しと命、健康に対する考えで心を確定して癒された姿、健康に生きていく姿を考えてください。そして"神よ, わたしの 心は 定まりました. わたしの 心は 定まりました. わたしは 歌い, かつほめたたえます. "と叫びながら賛美してください。

神様は私達のために働く前に、私達の心の考えを調べられます。聖徒の心にある考えを貴重に扱われ、神様に頼って神様の御言葉に基づいて確定された心の考えを現実になるようにしてくださいます。従って、心を未確定な状態においてはなりません。神様の約束に相反された考えが居着かないようにしなければなりません。二つの心を抱いて安定がない状態にならないようにすべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神の最後の審判を備えよ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は誰でも、将来を知りたいという欲求があります。ところが、一つの不思議と、素晴らしいのは、多くの人々が自分の永遠の運命に関わる重要な予言については関心がないという事実です。その予言は、新約聖書の ヘブル人への手紙 9 章 27 節です。**「 一度だけ 死ぬことと，死んだ後 さばきを 受けることとが，人間に定まっているように」**と記録しました。すべての人は、聖書この節の前には知っています。聖書を読んだり、説教を聞いたことがなくても、「人が、一度だけ死ぬこと定めた理」という事実を知らない人はいません.

しかし、「その後、審判がある」、この真理には聞いていなかったか、聞いても無視して生きていきます。聞いていないと、最後の審判から除外できません。無視しまうでも除外できません。神の最後の審判に関する知識は、すべての人が必ず持つべき知識であり、誰でも備えなければならない大事です。これから神の最後の審判に関連して詳しく見てみましょう

神の最後の審判があるという事実を、私たちがどのように知ることができているかを見てみましょう。聖書には、神が彼を敵対する者を懲罰した事件、特に、イスラエルの反抗の対して懲罰の歴史が多く記録されました。新約聖書には、教会を損なう者の懲罰の記録があります。これらのことと、神が人類の歴史の中で下がる大審判は最後の審判があることを予告しています。ノアの洪水審判とソドムゴモラに臨んだ審判が代表的です.

終末の時はノアの時とロトの時と同じだとイエスは言われました。**「そして，ノア の 時にあったように， 人の 子の 時にも 同様なことが 起るであろう． ノア が 箱舟にはいる日まで， 人々は 食い， 飲み， めとり， とつぎなどしていたが， そこへ 洪水が 襲ってきて， 彼らをことごとく 滅ぼした． ロトの 時にも 同じようなことが 起った． 人々は 食い， 飲み， 買い， 賣り， 植え， 建てなどしていたが， ロト が ソドム から 出て 行った 日に， 天から 火と 硫黄とが 降ってきて， 彼らをことごとく 滅ぼした． 人の 子が 現れる 日も， ちょうどそれと 同様であろう」（ ルカによる福音書 17：26~30）**しました。イエスの再臨と最後の審判に関するメッセージは、人々の興味を起こさせません。しかし、不信と無関心が審判を除きません。死んだ後、最後の審判がある最も確実な証拠は、聖書の預言です。聖書には、最後の審判に対して何回も記録されています。聖書の預言は必ず成就されます

人が死んだ後には行く場所が二つの所の中で一つです。イエスは、**「人の 子が 榮光の 中にすべての 御使たちを 従えて 來るとき， 彼はその 榮光の 座につくであろう． そして，すべての 國民をその 前に 集めて， 羊飼が羊とやぎとを 分けるように， 彼らをより 分け， 羊を 右に， やぎを 左におくであろう．そのとき， 王は 右にいる 人々に 言うであろう， 『わたしの 父に 祝福された 人たちよ， さあ， 世の 初めからあなたがたのために 用意されている 御國を 受けつぎなさい．それから， 左にいる 人々にも 言うであろう，『のろわれた 者どもよ， わたしを 離れて，悪魔とその 使たちとのために 用意されている永遠の 火にはいってしまえ」（ マタイによる福音書 25：31~34,41）**と言われました

ひとつのころでは、イエス・キリストを信じて義人になった人々が入るところで、天国です。別のところでは、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火の池です。罪人が入るところです。その罰は永遠です。ヨハネの默示錄 20 章に**「また， 死んでいた 者が， 大いなる者も 小さき 者も 共に， 御座の 前に 立っているのが 見えた． かずかずの 書物が 開かれたが， もう 一つの 書物が 開かれた．これはいのちの 書であった． 死人はそのしわざに 応じ， この 書物に 書かれていることにしたがって， さばかれた． 海はその 中にいる 死人を 出し， 死も 黄泉もその 中にいる 死人を 出し， そして， おのおのそのしわざに 応じて， さばきを 受けた」（ヨハネの默示錄 20：12,13）**と記録された。いのちの書以外の本は人間の行為が記録された本です。いのちの書に名前がない人は、この本に記録されているとおり審判を受けます。

最後の審判は、「白く大きな王座」の前の審判と「キリストのさばきの座」の前の審判という二つの面があります。「白い御座の前の審判」は、命の書に記録されていない者が受ける裁きです。第二の死はすぐ火の池に投げ込まられる審判です。「キリストのさばきの座の前での審判」は、クリスチャンがこの世で行ったことに応じて報いを受けることになる審判です。その名前が命の書に記録された者が受ける裁きです。これについてコリント人への第一の手紙 3 章には、次のように述べています

「この 土台の 上に， だれかが 金， 銀， 寶石， 木， 草， または， わらを 用いて建てるならば， それぞれの 仕事は， はっきりとわかってくる． すなわち， かの 日は火の 中に 現れて， それを 明らかにし， またその 火は， それぞれの 仕事がどんなものであるかを， ためすであろう．もしある 人の 建てた 仕事がそのまま 殘れば， その 人は 報酬を 受けるが， その 仕事が 燒けてしまえば， 損失を 被るであろう． しかし 彼自身は， 火の 中をくぐってきた 者のようにではあるが， 救われるであろう」（コリント人への第一の手紙 3：12～15）

自分が行ったことが 報酬の審判で燃えずにそのままに残る報いと賞を受ける必ず適用しなければなら基準があります。

ロ―マ人への手紙 12 章 2 節に記載の基準には、**「あなたがたは， この 世と 妥協してはならない． むしろ， 心を 新たにすることによって， 造りかえられ， 何が 神の 御旨であるか， 何が 善であって， 神に 喜ばれ， かつ全きことであるかを， わきまえ 知るべきである」**これにしたがって決定し、選択し行いなさいと言いました。 コリント人への第一の手紙 10 章 23 節と 31 節に記載の基準には、**「すべてのことは 許されている． しかし， すべてのことが 益になるわけではない． すべてのことは 許されている． しかし， すべてのことが 人の 德を 高めるのではない だから，飲むにも 食べるにも， また 何事をするにも，すべて 神の 榮光のためにすべきである」**これのゆえに決定し、選択し行いなさいと言いました。 ペテロの第一の手紙 4 章 11 節に記載の基準には、**「語る 者は， 神の 御言を語る 者にふさわしく 語り， 奉仕する 者は，神から 賜わる 力による 者にふさわしく 奉仕すべきである． それは， すべてのことにおいて イエス・キリスト によって， 神があがめられるためである． 榮光と 力とが世々限りなく， 彼にあるように， アァメン 」**しました。 貢力が燃えたら、その人は、救いを火の中で得られたらしいとしました。命を救ったのは、幸いとすぼらしい姿に起因するが恥は免れないでしょう。

イエス・キリストを信じる人は誰でも救いを受ける、キリストの裁きの座で審判を受けることになるが、貢力が燃える恥に会わないようにする必要があります

神の国で享受する栄光と地位はおのおのの行為に基づいて差分があります。 ヨハネの默示錄 22 章 12 節には**「見よ， わたしはすぐに來る． 報いを 携えてきて， それぞれのしわざに 応じて 報いよう」**と、主の言葉があります。聖書は、主の聖徒たちに与えてくださる義の冠（テモテ 4：8）、金の冠（ 默示錄 4：4）、腐らない冠（コリント人への第一の手紙 9:25）、誇りの冠（テサロニケ 2:19）、生命の冠（ヤコブ 1:12）、栄光の冠（ペテロの第一の手紙 5：4）について知らせています。そして、主がくださる報いと冠を得るように励みなさいと言われています**「すべて 競技をする者は， 何ごとにも 節制をする． 彼らは 朽ちる 冠を 得るためにそうするが， わたしたちは 朽ちない 冠を 得るためにそうするのである」（コリント人への第一の手紙 9:25）**

私たちは、この世で生きていく日々は、将来の冠と賞を受けるための機会の日々です。使徒パウロは、勧めるのを**「だから，愛する 兄弟たちよ． 堅く 立って 動かされず，いつも 全力を 注いで 主のわざに 勵みなさい． 主にあっては，あなたがたの 勞苦がむだになることはないと，あなたがたは 知っているからである」（コリント人への第一の手紙 15:58）**しました

自分が天国に行くか地獄に行くかどうかは、この世で生きる間に、決定されます。

イエスは言うのを**「神はそのひとり 子を 賜わったほどに， この 世を 愛して 下さった．それは 御子を 信じる 者がひとりも 滅びないで， 永遠の 命を 得るためである． 彼を信じる 者は， さばかれない． 信じない 者は， すでにさばかれている． 神のひとり 子の 名を 信じることをしないからである」（ヨハネによる福音書 3：16,18）**としました。

神は創造主であるまた統治者だけでなく、裁判長でいらっしゃいます。詩篇に**「天は 神の 義をあらわす，神はみずから，さばきぬしだからである． 〔セラ 」（詩篇 50：6）**しました

義なる神は罪を黙認したり、容認しないです。過去にも審判したし、今も裁かれます。ただ、すべての人がこの世で行なったとおり、常に報いを受けることはありません。しかし、将来の審判が待っています。それは最後の審判です。救いを得られなかった人たちは、「大きな白い御座の裁きの座」の前に立つことがあり、それぞれの人が行なったとおり審判を受けることです。罰の程度が決定される審判です。イエス・キリストを信じて救われた人々も、「キリストの裁きの座」でおのおのが行なったとおり審判を受けることです。貢力が燃えてしまうので恥を受ける者がいて、貢力が燃えないので、報いと賞を受ける者がいるでしょう。

愛する聖徒の皆さん、神の最後の審判を常に考えながら生きて行きなさい。 **「一度だけ死ぬことと， 死んだ 後さばきを受けることとが，人間に 定まっているように」** イエス・キリストを信じて子羊の命の書に名前が記録された皆さんは、緊迫した気持ちで熱情的に福音を述べ伝えて、多くの人を救いに導き下さい。そして、自分に仕える姿勢ではなく純粋に主に仕える姿勢で主の仕事に力を尽くして下さい。